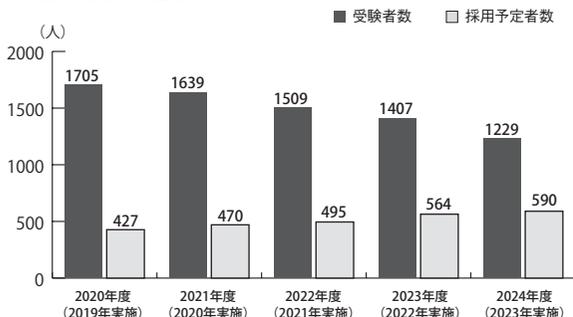


# 鹿児島県

面積	9,186 km <sup>2</sup>
人口	1,530,961 人
県の花	ミヤマキリシマ
県の木	カイコウズ、クスノキ
県の鳥	ルリカケス

求める教員像	○心身ともに健やかで、明朗活発な教師 ○高い専門性と幅広い教養をもち、謙虚に学び続ける教師 ○情熱と使命感にあふれ、教育的愛情をもつ教師 ○人間性豊かでの確かなコミュニケーション能力をもつ教師
出願期間	公開日 1月31日(水) 電子申請 4月1日(月)～4月26日(金) 17:00 出願書類郵送 4月1日(月)～4月30日(火)〈消印有効〉
試験日程	1次試験 試験日 6月16日(日) 合格発表日 7月12日(金) 2次試験 試験日 8月2日(金)～13日(火)の指定した日 合格発表日 9月6日(金)
年齢制限	昭和40年4月2日以降に生まれた者
募集教科	[小] [中] 国語, 社会, 数学, 理科, 音楽, 美術, 保健体育, 技術, 家庭, 英語 [高] 国語, 地歴, 公民, 数学, 理科, 保健体育, 音楽, 美術, 英語, 家庭, 農業, 工業(機械, 電気・情報, 土木, インテリア), 商業, 水産(栽培工学, 食品加工), 看護, 福祉, 情報 [特] (小)(中高) 国語, 社会(地理歴史・公民), 数学, 理科, 保健体育, 技術, 音楽, 美術, 外国語(英語), 家庭 [養] [栄]
特記事項	<p>■特別選考 I 現職教員 県外公立学校等の正規教員として令和6年3月31日時点で3年以上の勤務実績を有し、令和7年3月31日まで継続した勤務が見込まれる者は、1次を免除。II A 正規教職員経験者(3年以上勤務かつ5年以内退職) 公立学校正規教員として通算3年以上の勤務経験があり、直近5年以内に退職した者は、1次を免除。II B 正規教職員経験者(3年以上勤務) 公立学校正規教員として通算3年以上の勤務経験がある者は、1次の教職・一般を免除。III A [英語] 小学校・特別支援学校 [小・特] 志願者で、㉞～㉟のいずれかに該当する者は、1次の教職・一般を免除。[特] 英語志願者は、2次の英語会話も免除。㉞ [中] 又は [高] 英語免許状保有者。㉟ CEFR B1 相当以上の英語力を有する者。㊱ 英語を使用した海外大学留学経験等が2年以上の者。III B [英語] 中学校・高等学校 [中・高] 英語志願者で、英語免許状を有し、CEFR B2 相当以上の英語力を有する者は、1次の専門、2次の英語会話を免除。IV スポーツ・芸術 [中] 音楽, 美術, 保健体育 [高] 芸術, 保健体育 [特(中高)] 音楽, 美術, 芸術, 保健体育志願者で、規定の要件を満たす者は、1次及び2次の実技を免除。教員免許状を有していなくても受験可能。V 大学推薦 [小・中・特] 志願者で、本県教委が指定した大学等が推薦する者は、1次を免除。VI 臨時的任用教員 出願時において本県公立学校の臨時的任用教員等であり、平成31年4月1日～令和6年5月1日に同教員等として通算36月以上の勤務経験を有する者は、1次の教職・一般を免除。VII 社会人 [高] 情報, 家庭, 看護志願者で、規定の要件を満たす者は、書類審査の上、1次の教職・一般、2次の被服実技(家庭)を免除。教員免許状を有していなくても受験可能。VIII 障害者 1次の教職・一般を免除。受験上の配慮を行う。IX 教職大学院 教職大学院修了者又は令和7年3月31日までに修了予定の者は、1次の教職・一般を免除。</p>

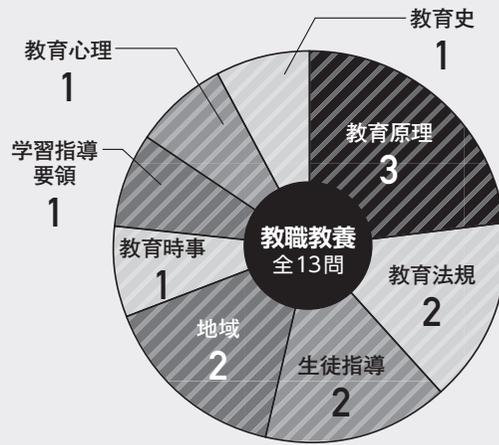
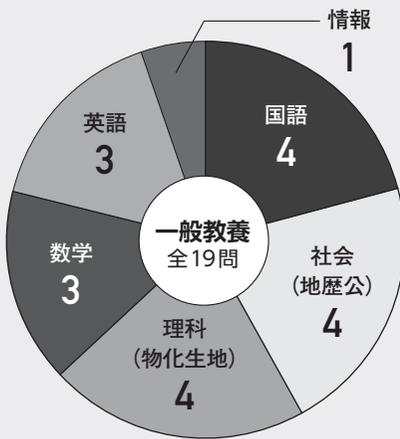
### ▼受験者数等推移



### ▼令和4年度 問題行動調査でのいじめの認知件数と不登校児童・生徒数

	小学校	中学校	高等学校
いじめ(件)	7,540	2,964	427
不登校(人)	1,256	2,565	1,112

## 2025年度(2024年実施)筆記試験DATA



\*「地域」には「教育原理」、「教育時事」も含まれる。

- ▶ 教育時事で必出のご当地問題
- ▶ 教育法規は教育基本法といじめ防止対策推進法
- ▶ 人文科学は国語(現代文読解)と英語(会話文)

〈教職教養〉のうち、**学習指導要領**では、総則から「小(中・高等)学校教育の基本と教育課程の役割」に関する問題が出題された。

**教育原理**(特別支援教育、人権教育等)のうち、特別支援教育では、「新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議報告」(2021年)から通常学級での支援のあり方等に関する問題が出題された。また、「発達障害を含む障害のある幼児児童生徒に対する教育支援体制整備ガイドライン」(2017年)から特別支援教育コーディネーターの理解を問う問題も出題されている。人権教育ではご当地問題が出題されやすく、今年度は「鹿児島県人権教育・啓発基本計画」に関する問題がみられた。

**生徒指導**では、昨年度に続いて「生徒指導提要」(2022年)の第12章から「性的マイノリティ」に関する問題がみられた。

**教育時事**では、「次期教育振興基本計画について(答申)」(2023年)から「総括的な基本方針・コンセプト」に関する問題等がみられた。また、ご当地問題

は必出であり、昨年度に続いて「鹿児島県教育振興基本計画」(2024年)から基本目標に関する問題が出題された。

**教育法規**では教育基本法やいじめ防止対策推進法が頻出であり、今年度はそれぞれ第2条、第15条が出題された。また、こども基本法も出題されている。なお、今年度出題されなかった地方公務員法(服務)も要注意であり、確認したい。

**教育心理**では、心理療法(遊戯療法、ゲシュタルト療法、森田療法)の理解を問う問題がみられた。

**教育史**では、日本教育史から石田梅岩、森有礼、沢柳政太郎を古い順に並べさせる問題が出題された。

〈一般教養〉のうち、**人文科学**では例年、国語(現代文読解)と英語(会話文)から出題されており、今年度も同じような出題となった。**社会科学**では時事を除く領域から幅広く出題されており、今年度もこの傾向は維持されていた。**自然科学**では例年、数学(式の計算、方程式と不等式等)と理科全般から幅広く出題されており、今年度も同様の傾向となった。